

2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年8月10日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福
コード番号 2058 URL <http://www.k-higashimaru.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 勤
問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理部部長 (氏名) 松久保 稔 (TEL) 099-273-3859
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	2,922	11.9	△48	—	△18	—	△32	—
2023年3月期第1四半期	2,611	△1.3	△41	—	35	△78.7	42	△57.5

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 14百万円(△79.0%) 2023年3月期第1四半期 68百万円(△30.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△8.27	—
2023年3月期第1四半期	10.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	14,742	5,195	35.2
2023年3月期	14,367	5,216	36.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 5,195百万円 2023年3月期 5,216百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,749	13.2	155	—	162	455.8	80	—	20.35
通期	13,036	11.2	425	—	452	359.0	245	—	62.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	4,746,000株	2023年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	809,823株	2023年3月期	809,823株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	3,936,177株	2023年3月期1Q	3,918,111株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の連結業績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられたことでコロナ禍の終息に向けた動きは加速する傾向にあり、個人消費やインバウンド需要が回復の動きを続けて景気は緩やかに持ち直すと予想されます。しかしながら、ウクライナ情勢の泥沼化や円安進行による物価上昇、食料品や生活必需品の値上がりも継続する見通しであり、企業収益の悪化や家計負担の増加が懸念される状況で推移しました。

このような環境のなか、当社グループの事業環境におきましては、個人消費や外食需要、インバウンド需要の回復基調を受けて売上を伸ばすことができた反面、海外経済の不安定な動きから、魚粉や小麦粉等の主要原材料、燃料費、輸送費及び資材費などの価格高騰の影響は深刻化する兆しがあり、コスト増によるさらなる利益の圧縮が予想されるため、コストカットや販売価格の見直しなどの対応の必要性に迫られています。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は売上高29億22百万円（前年同四半期比11.9%増）、営業損失48百万円（前年同四半期は営業損失41百万円）、経常損失18百万円（前年同四半期は経常利益35百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失32百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益42百万円）となりました。

①水産事業

水産事業におきましては、外食及び業務用向け関連商材の売上が徐々に回復し、鮮魚市場の流通も活発さを取り戻してきています。しかしながら、物価上昇や全体的な生産コスト増加の影響を受けて魚価は高騰しており、市場が少しでも安い商材を求める傾向にあることから、養殖業者においては養殖魚の種苗導入、飼育及び出荷の調整が難しい状況が続いております。

また、養魚用配合飼料の主要原料となる魚粉の価格が、円安進行や新興国の強力な買い付けに起因してこれまでに高騰しているほか、燃料費や資材費、輸送費といった生産コストが軒並み増加しており、利益が圧縮される動きとなっています。今後も継続するコスト上昇を考慮して、製品価格の再改定実施の判断をせざるを得ない状況で推移しました。

エビ飼料類は、値上げにより前年同期に比べて販売単価が上がっているほか、販売先の養殖在池尾数が多く良好な育成状況であったことから販売も順調に進み、前年同期を上回りました。ハマチ飼料類は、4月の値上げ前に買い込みがあった受託製品の在庫が消化される期間であったことと、八代海で発生した赤潮対策の制限給餌の影響により、前年同期を下回りました。ヒラメ・トラフグ・マダイ飼料類は、値上げにより前年同期に比べて販売単価が上がっているほか、6月からの値上げ前の買い込みで4月と5月の販売数量が増えたことで前年同期を上回りました。

魚類種苗生産事業は、取引先での生育状態により出荷時期の遅延が発生したことと、生産販売を終了した魚種があったことにより、前年同期を下回りました。クルマエビ養殖事業は、養殖池の整備と種苗の池入れが当期間の主要な業務であり、昨年度からの在庫数量が少なく出荷数量が減少したことから、前年同期を下回りました。魚類養殖事業は、クロマグロの出荷を開始したこととスギの出荷数量も増えたことから、前年同期を上回りました。鮮魚販売事業は、外食等業務用向けの販売は増加傾向にありましたが、量販店向けの販売が減少し、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は15億96百万円（前年同四半期比14.5%増）、セグメント利益は36百万円（前年同四半期比170.3%増）となりました。

②食品事業

食品事業におきましては、人出や物流が回復傾向にあり、量販店や外食産業はコロナ禍前の状況に戻りつつあります。一方で不安定な世界情勢や円安の進行、原料費や資材費、エネルギー関連商材の価格高騰などの影響により、食料品価格の値上がりは続いております。

主原料の小麦粉を始め、パーム油や資材、輸送費等が軒並み値上がりしている状況のなかで、販売店での拡販競争は今後も厳しいものであることが予想され、コストを適切に転嫁した製品価格改定の再実施の見定めが必要な状況で推移しました。

即席麺類は、インバウンド需要の回復傾向を受けて、委託企業のブランド名で製造するOEM商品やPB（プ

ライベートブランド)商品の販売が増加し、新規取引先での採用などもあったことから、前年同期を上回りました。乾麺類(うどん・そうめん等)は、価格改定の影響を受けて販売数量が減少し、PB商品では内容量変更の影響を受けた販売エリア縮小などもあり、前年同期を下回りました。また、主力商品の皿うどん類は、競合他社との戦略や価格の競争が続くなか、価格訴求品の販売数量は増加したものの、PB商品の販売数量が減少し、前年同期を下回りました。一方で、ラーメン類は、海外向けOEM商品及びPB商品の受注が大幅に増加し、前年同期を上回りました。

カレールー・シチュールー類は、4月に価格改定を実施したものの、量販店への販促や新規導入店での定番商品化が順調に推移し、前年同期を上回りました。穀粉類は、価格改定や原料不足の影響により一部の顧客では販売数量が減少しましたが、新規企画の採用や既存顧客への拡販が出来たことで、前年同期並みで推移しました。かき揚げ類は、原材料価格等の高騰から値上げを実施したことで販売アイテムの移行はありましたが、新規企画の採用や既存品の拡販が順調に推移し、前年同期を上回りました。

その結果、売上高は13億26百万円(前年同四半期比8.9%増)、セグメント利益は15百万円(前年同四半期比71.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ3億75百万円増加し、147億42百万円となりました。これは、主として、現金及び預金が1億18百万円増加し、受取手形及び売掛金が3億29百万円増加し、商品及び製品が99百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ3億96百万円増加し、95億47百万円となりました。これは、主として買掛金が1億円増加し、短期借入金が3億53百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ21百万円減少し、51億95百万円となりました。これは、利益剰余金が67百万円減少し、その他有価証券評価差額金が46百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月15日に公表しました「2023年3月期決算短信」における業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,310	1,429
受取手形及び売掛金	1,687	2,016
商品及び製品	752	851
仕掛品	419	433
原材料及び貯蔵品	1,917	1,970
その他	425	158
貸倒引当金	△11	△12
流動資産合計	6,501	6,847
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,498	2,415
土地	2,222	2,222
その他（純額）	1,715	1,722
有形固定資産合計	6,436	6,360
無形固定資産		
のれん	66	61
その他	20	18
無形固定資産合計	87	80
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,381	1,493
貸倒引当金	△39	△39
投資その他の資産合計	1,342	1,454
固定資産合計	7,866	7,895
資産合計	14,367	14,742

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	736	837
短期借入金	3,731	4,085
未払法人税等	44	14
賞与引当金	164	119
その他	640	715
流動負債合計	5,317	5,771
固定負債		
長期借入金	2,179	2,109
退職給付に係る負債	101	104
その他	1,553	1,561
固定負債合計	3,834	3,775
負債合計	9,151	9,547
純資産の部		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	433	433
利益剰余金	4,814	4,746
自己株式	△886	△886
株主資本合計	4,965	4,897
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	250	297
その他の包括利益累計額合計	250	297
純資産合計	5,216	5,195
負債純資産合計	14,367	14,742

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,611	2,922
売上原価	2,103	2,422
売上総利益	508	500
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	126	137
貸倒引当金繰入額	2	0
給料及び賞与	130	121
賞与引当金繰入額	29	28
退職給付費用	5	6
その他	255	254
販売費及び一般管理費合計	550	548
営業損失(△)	△41	△48
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	4	5
為替差益	58	5
デリバティブ評価益	-	14
雑収入	17	13
営業外収益合計	81	40
営業外費用		
支払利息	3	9
雑損失	0	0
営業外費用合計	3	9
経常利益又は経常損失(△)	35	△18
特別利益		
受取和解金	55	-
特別利益合計	55	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	90	△18
法人税、住民税及び事業税	32	12
法人税等調整額	15	1
法人税等合計	47	14
四半期純利益又は四半期純損失(△)	42	△32
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	42	△32

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	42	△32
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	46
その他の包括利益合計	25	46
四半期包括利益	68	14
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	68	14
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	920	—	920	—	920
養殖魚類	472	—	472	—	472
乾麺・即席麺類	—	506	506	—	506
カレールー・シチュールー類	—	376	376	—	376
穀粉類	—	195	195	—	195
かき揚げ類	—	139	139	—	139
顧客との契約から生じる収益	1,393	1,218	2,611	—	2,611
外部顧客への売上高	1,393	1,218	2,611	—	2,611
セグメント利益	13	55	68	△32	35

(注) 1 セグメント利益の調整額△32百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費90百万円、営業外収益60百万円、営業外費用3百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	1,193	—	1,193	—	1,193
養殖魚類	402	—	402	—	402
乾麺・即席麺類	—	573	573	—	573
カレールー・シチュールー類	—	395	395	—	395
穀粉類	—	196	196	—	196
かき揚げ類	—	161	161	—	161
顧客との契約から生じる収益	1,596	1,326	2,922	—	2,922
外部顧客への売上高	1,596	1,326	2,922	—	2,922
セグメント利益又は損失(△)	36	15	52	△70	△18

(注) 1 セグメント利益の調整額△70百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費76百万円、営業外収益10百万円、営業外費用4百万円であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。